

令和7年度 全国学力・学習状況調査 結果分析

我孫子市立根戸小学校

＜教科に関する調査結果より＞

調査した教科（国語・算数・理科）において全国・県の平均の正答率を上回っている。また、各教科のすべての領域で全国・県平均を上回っており、良好な結果であった。

【国語】

すべての項目（領域・問題形式）で全国・県平均を上回っている。領域別でみると、特に「話すこと・聞くこと」は大きく上回っている。しかし、目的に応じて文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけることができるかどうかを見る選択式の問題における正答率が低い。記述式の問題においては、無回答が1割と多く、文章と関連付けた図表の読み取りに課題が見られた。

【算数】

領域別でみると、すべての領域で全国平均を上回り、特に「数と計算」「変化と関係」「データの活用」で全国平均を大きく上回っている。また、回答形式では、記述、短答、選択のどの形式においても全国平均を大きく上回っている。正答率が低かったのは、目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題であった。無回答率は0%と、記述する努力はしているが、問題の内容を理解し資料から判断する力が足りないと考えられる。

【理科】

領域別でみると、すべての領域で全国平均を上回り、特に「エネルギー」を柱とする領域、「地球」を柱とする領域がよくできている。回答形式では、全ての形式で全国平均を上回っているが、特に短答形式ポイント高かった。正答率が低かったのは、身の回りの金属について、電気を通すもの、磁石に引き付けられるものがあることの知識を問う問題と、種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現することができるかを記述で問う問題であった。記述問題に関しては無回答もあり、課題が見られた。

<児童に対する質問紙調査結果にみられる特徴と現状>

「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」や「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」などの質問の回答とみると、全国・県平均を大幅に上回っている。これは、様々な学習場面において、グループでの話し合い活動を取り入れている成果と考えられる。全国平均と比べ、学校生活は楽しく、友だちとの関係も良好だと考えている児童が有意に多い。特に、いじめはよくないことと考えている児童は平均を大きく上回っている。一方で、将来の夢や目標を持っているかを問う質問や、自己肯定感に関する質問が平均を下回っている。

<学校質問結果にみられる特徴と現状分析>

校内研修を中心に普段から、様々な学習活動場面でグループでの話し合い活動を取り入れている。また、特に算数科においては、解答までの過程を大事にし、自分で考えたり、友だちに自分の考えを伝えたりする活動を多く取り入れることで、学習内容の習得につながっていると考えられる。

<改善策・検証方法>

・改善目標

国語…目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるようになること。

算数…目的に応じて図やグラフを読み取り、読み取った内容を友だちにわかりやすく説明ができるようになること。

理科…金属の性質や発芽の条件について理解し、応用することができるようになること。

・改善方策

国語…算数など他の教科とも連携し、図や表を正しく読み取る学習を取り入れる。また、読み取ったことを言葉で表現する機会を設ける。

算数…自分でテーマを決めてデータを集め、図やグラフをかいたり、興味のある図やグラフを読みとって説明したりする活動を取り入れる。

理科…基礎基本の確実な定着を目指し、実験の目的や意義を理解しながら取り組めるような学習を取り入れる。